令和　7　年度 小規模多機能型居宅介護　ゆうあいの家「サービス評価」総括表

法人名	特定非営利活動法人 水度坂友愛ホーム	代表者	理事長 松野　伸哉
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ゆうあいの家	管理者	岩城　順子

法人・事業所の特徴	当法人は地域に開かれた事業所として、うたのゆりかご、物忘れ予防教室、みんなのカフェ、介護啓発事業を地域活性化事業と位置付け、積極的に取り組んでいる。ゆうあいの家は、家族との絆の大切さを理念の一つに掲げ、常にご本人が家族と共にその人らしい暮らしを続けていけることができるよう在宅支援援助をおこない、地域の拠点となる事業所を目指している。「暖かい心　優しい手　そして笑顔を」をモットーに、チーム一丸となって日々の柔軟なケアとサービスの質の向上に努めている。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	１人	０人	１人	０人	人	１人	人	３人	０人	６人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A.　事業所自己評価確認	常勤スタッフ非常勤スタッフの情報の共有をしっかりと図る。ミーティングノートの確認をする。利用者の残存機能を維持する支援を考える。	中々情報の伝達が上手く行かない時があり全員の支援方法の違いが見えて来た。問題解決に繋ぐ様に一人一人の支援方法を確認してなにが良いのかミーティングにより支援方法を皆で考えて決めて行った。非常勤職員スタッフ　ノートを見ない職員には口頭で伝えて行った。過介護にならない支援方法に話題を集中して利用者の残存機能維持に力を入れた。	何でもしてもらって当たり前だと捉えている利用者さんへの言葉選びが難しい。認知機能がしっかりしているご利用者さんの方が何でもやってもらいたがる。新人職員にはわがままをいわれる。ミーティングノートを読まないスタッフの対策には口頭で何度も伝えている。情報の共有問題解決には話し合いしかない。	支援計画の変更があった場合全職員に確認をとる完璧な方法を考える。 新しいご利用者の情報は自分でしっかり確認する。知りえた情報について皆でノートを使い共有する。
B．事業所のしつらえ・環境	地域の方々が事業所に入りやすいように門扉前の花壇は常に明るく四季の花を大切に育てている。花一杯運動でも協力して頂けている。	認知症カフェ・物忘れ予防教室に興味を持って来てくださり、地域の方がよく来て下さっている。予防教室ではナースに利用初めに長谷川式で今の状態を数字で表せていただき最終には良い結果が出て喜んで頂けている。大正琴・音楽療法・エアロビクス・漢字教室など地域の方々の協力でさせて頂けている。介護施設特有の匂いがしないように努めている。	室内は明るく窓も大きく広々として開放感のある環境となっている。 業所全体にご利用者さんの笑い声等聞こえて楽しい雰囲気作りが出来ている。 コーラス練習場で利用して頂き地域の方々が気軽に事業所に来て下さっている。	全職員が地域の方々への挨拶を心掛ける。 地域の方々が訪ねてきやすい環境つくりに繋げる。 感染対策もしっかりとして安心安全に利用して頂くようにする。
ｃ．事業所と地域の関わり	もう少し地域交流の場を設ける。 小学校　中学年の子供たちとの交流も設けたい。	今年は西城陽高校のコーラス部の子供たちとの触れ合いが出来とてもご利用者さんが喜んでくれた。左義長などの参加で中学校にも利用者さんと行けた。 夏祭り・クリスマス会・新年会・お花見会などに地域の方々が民生の方・子供たちの参加で行事が華やいだ。	地域の学校行事の情報をもっと集めるように努力していきたい。 地域資源をもっと活用するように心掛ける。 地域の防災訓練に参加する。	地域の情報収集を掲示板･広報などで集め　何が利用者さんにとって良いのか考えて参加出来るようにしていく。 地域の方が気軽に立ち寄って頂ける雰囲気つくりを心掛ける。

D．地域に出て本人の暮らしを支える取り組み	利用者さんに必要な支援なら訪問で外出もしていきたい。地域行事の参加を促して生活の活性化に繋げる。	地域行事の日程などが情報取集の甘さで出来ていない。 民生さんとの交流も行事の時だけになってしまっている。	地域資源の使い方を考えて、地域に出向く機会を取り入れる様に出来たらいい。 夏祭りや、運動会にもっと地域の方に声かたらどうか？ ご利用者さんの地区の敬老会にスタッフが連れて行くのはどうか。	家族さんとの交流を深め地域資源ももっと活用するように心かける。 地域の行事の情報収集を心掛ける。 季節行事ごとに利用者さんが外に出向くことが出来るように考える。活性化に繋げる。
E．運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議で事業者に対する意見を頂く。地域の情報も教えて頂く。	運営推進会議の方々にもっと事業所に来ていただき普段の様子もみて欲しかった。 民生さんたちとの交流をもう少し深めていきたい。	運営推進会議の方に季節行事の情報を提供してもらう。 地域の独居の方の情報も推進会議の方に尋ねてみたらどうか？ まだまだ事業所だけの対応になっていて地域資源の活用に至っていない。	運営推進会議で事業所に対しての意見を頂くとともに、地域の情報収集もさせていただける機会だと思うから大切にしていきたい。 地域資源をもっと取り入れていく。
F．事業所の防災・災害対策	高齢者　近所の子供さんとの交流を深め地域の情報をキャッチしておく。 災害時の利用者情報の整理をしておく。薬事情報など。	ご近所の住民の方の情報が取れていない。 地域の防災訓練の参加が出来ていない。 BPC 会議は毎月出来ている。 地震の防災訓練を消防の方に来てもらい出来た。	警察官、消防の方の研修で気持ちが引き締まった。災害時にはご近所の関わりが大事である。 事業所の不審者侵入時の合言葉が浸透してきた。	警察官による本番さながらの演習はとても為になり今年も取り入れて欲しい。 ご利用者さんとの避難訓練もかなりの緊張感で取り組んでもらえた。 敬老の日と防災訓練を合わせて行っていることがとても良い事だと思う。今年もそうしていきたい。